

平澤 重信 HIRASAWA Jyushin

1948 長崎市に生まれる
1971 日本大学農獣医学部獣医学科卒業
2014 ギャラリー枝香庵で個展(2016,2018,2020,2022,2024,2026)
2022 「11日間の人間風景」(株)ギャラリーステーションより出版
現在 東京都府中市在住

個展歴(2026.2.6現在)

1977 画塾駱駝館(東京)	ギャラリー松下(豊田)	四季彩舎(東京)
1982 紀伊國屋画廊(東京)	アスクエア神田ギャラリー(東京)	山口画廊(千葉)
1983 たましんギャラリー(東京)	露画廊(東京)	置戸ぼっぱ絵画館(北海道)
ギャラリーかわまつ(東京)	2004 ギャラリーミリュウ(東京)	ギャラリー桜の木(東京)
1984 ギャラリーかわまつ(東京)	露画廊(東京)	2014 ギャラリー恵風(越谷)
1986 紀伊國屋画廊(東京)	アスクエア神田ギャラリー(東京)	ギャラリー枝香庵(東京)
1987 ギャラリー創(東京)	四季彩舎(東京)	あらかわ画廊(東京)
1988 紀伊國屋画廊第18回シリーズ展(東京)	山口画廊(千葉)	ギャラリー亜露麻(東松山)
ギャラリーシェーネ(東京)	2005 日本橋高島屋6F美術画廊(東京)	山口画廊(千葉)
1989 ギャラリーオキュルス(東京)	ギャラリーしらみず美術(東京)	豊田画廊(豊田)
1990 紀伊國屋画廊(東京)	朝霞山ギャラリー一徳堂(東京)	2015 四季彩舎(東京)
ギャラリーアートワーク湯島(東京)	アスクエア神田ギャラリー(東京)	新潟絵屋(新潟)
1991 中村屋画廊(東京)	山口画廊(千葉)	ギャラリー恵風(越谷)
渡辺画廊(名古屋)	Arndean Gallery(ロンドン)	あらかわ画廊(東京)
1992 大発画廊(東京)	ギャラリー桜の木(東京)	山口画廊(千葉)
紀伊國屋画廊(東京)	2006 ギャラリーミリュウ(東京)	2016 心の花美術館(上田)
鹿児島三越(鹿児島)	アスクエア神田ギャラリー(東京)	なかお画廊(熊本)
1993 ギャラリーシェーネ(東京)	ギャラリーオキュルス(東京)	ギャラリー恵風(越谷)
ギャラリーレイ(東京)	山口画廊(千葉)	ギャラリー枝香庵(東京)
大発画廊(東京)	2007 アスクエア神田ギャラリー(東京)	あらかわ画廊(東京)
中村屋画廊(東京)	ギャラリーしらみず美術(東京)	山口画廊(千葉)
1994 渡辺画廊(名古屋)	山口画廊(千葉)	2017 ギャラリー恵風(越谷)
大発画廊(東京)	2008 あらかわ画廊(東京)	アートスペース水音(東京)
石川画廊(東京)	アスクエア神田ギャラリー(東京)	あらかわ画廊(東京)
アートコレクション中野(名古屋)	四季彩舎(東京)	2018 山口画廊(千葉)
1995 田口画廊(東京)	山口画廊(千葉)	四季彩舎(東京)
アートコレクション中野(名古屋)	みさき画廊(大分)	ギャラリー枝香庵(東京)
赤堀画廊(浜松)	ギャラリーヨアケ(掛川)	ギャラリーブロッケン(東京)
1996 田口画廊(東京)	アスクエア神田ギャラリー(東京)	あらかわ画廊(東京)
浜屋(長崎)	アートスペースエリコーナ(いわき)	ギャラリー絵夢(東京)
井筒屋(久留米)	ギャラリーオキュルス(東京)	2019 山口画廊(千葉)
山手画廊(名古屋)	四季彩舎(東京)	ギャラリー恵風(越谷)
1997 ギャラリーコレクション中野(名古屋)	山口画廊(千葉)	あらかわ画廊(東京)
1998 アスクエア神田ギャラリー(東京)	2010 ギャラリーしらみず美術(東京)	2020 ギャラリー枝香庵(東京)
鹿児島三越(鹿児島)	ギャラリーしらみず美術(東京)	ギャラリー恵風(越谷)
1999 ギャラリー桜の木(東京)	夢心坊(市原)	あらかわ画廊(東京)
四季彩舎(東京)	あらかわ画廊(東京)	山口画廊(千葉)
アスクエア神田ギャラリー(東京)	ギャラリーテムズ(東京)	2021 ウィリアムモリス(東京)
足立山麓ギャラリー(福岡)	紀伊國屋画廊(東京)	あらかわ画廊(東京)
アスクエア神田ギャラリー(東京)	山口画廊(千葉)	ギャラリーきつさこ(鹿児島)
ギャラリーミリュウ(東京)	アスクエア神田ギャラリー(東京)	2022 山口画廊(千葉)
2000 アサヒギャラリー(甲府)	みさき画廊(大分)	ギャラリー枝香庵(東京)
四季彩舎(東京)	あらかわ画廊(東京)	obi gallery(藤沢)
鹿児島三越(鹿児島)	四季彩舎(東京)	あらかわ画廊(東京)
アスクエア神田ギャラリー(東京)	羽黒洞(東京)	2023 obi gallery(藤沢)
ギャラリーミリュウ(東京)	山口画廊(千葉)	あらかわ画廊(東京)
2001 四季彩舎(東京)	2012 ギャラリー恵風(越谷)	ギャラリーきつさこ(鹿児島)
ギャラリーシェーネ(東京)	ギャラリーKANI(東京)	2024 ギャラリー枝香庵(東京)
たまプラーザ東急(神奈川)	アール・ヌーヴ・スクウェア・アートセンター(名古屋)	山口画廊(千葉)
露画廊(東京)	露画廊(東京)	obi gallery(藤沢)
ギャラリーミリュウ(東京)	山口画廊(千葉)	あらかわ画廊(東京)
2002 ギャラリー桜の木(東京)	アスクエア神田ギャラリー(東京)	ギャラリーきつさこ(鹿児島)
ギャラリーオキュルス(東京)	四季彩舎(東京)	2025 山口画廊(千葉)
露画廊(東京)	なかお画廊(熊本)	あらかわ画廊(東京)
羽黒洞(東京)	ギャラリー恵風(越谷)	ギャラリーきつさこ(鹿児島)
アスクエア神田ギャラリー(東京)	ギャラリーイン・ザ・ブルー(宇都宮)	2026 ギャラリー枝香庵(東京)
ギャラリーミリュウ(東京)	あらかわ画廊(東京)	
2003 四季彩舎(東京)	みさき画廊(大分)	
	露画廊(東京)	

えこうあん
ギャラリー枝香庵

GALLERY

枝香庵

echo-ann.jp

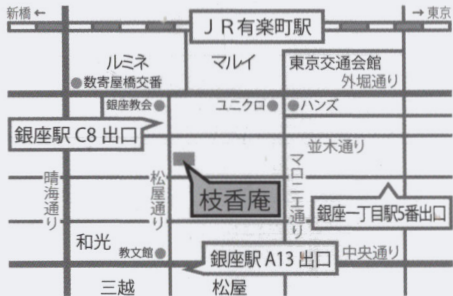


〒104-0061
東京都中央区銀座3-3-12
銀座ビルディング8F

https://echo-ann.jp
Tel 03-3567-8110

東京メトロ銀座駅
C 8 出口 1 分 / A13 出口 3 分
東京メトロ銀座一丁目駅
5 番出口 5 分

ビル左横の通路を入り
エレベーターでお越しください



「見ているのに見えていない景色がある」 墨ドローイング 112x82cm 2017年

2026年2月6日(金)ー2月15日(日)
11:30-19:00(日曜日、最終日-17:00)
水曜日休廊

GALLERY

枝香庵

平澤重信個展によせて

以前務めていた平塚市美術館には、平澤重信さんの作品が3点所蔵されている。どれも自由美術展に出品したものだ。「時の待ち合わせ場所」(2004年)、「時の間」(2005年)、「時の苑」(2007年)の3点。淡いブルーあるいはセピアを背景に、さまざまなモチーフが描き込まれている。その多くが犬や猫、自転車に乗るひと、小さな家等々。どれも平澤作品に繰り返し登場する常連のモチーフである。各モチーフは脈絡なく配置され、現実の束縛から解放された浮遊感を持つ。この脈絡の無さと浮遊感が、見る者の心の奥底に働きかけ揺り動かす。夢で見たような既視感が生まれ、白日夢のような不思議なリアリティーが生じるのである。それは普段忘れている、遠い記憶に繋がるものだ。忘却の淵に留まる、眠っていた記憶が呼び覚まされる。この不思議な既視感、リアリティーを孕むことで、平澤さんの作品世界は、単なるファンタジーと一線を画す。見る者に切ない郷愁の念を呼び覚まし、戻れぬ過去へと思いは馳せる。記憶のスクリーンが次々とめくられ、時空を超えて過去と現在の往還がうまれる。

さてこの3点、美術館の常設展で来館者にとっても人気がある。特に子供たちに大人気だ。平塚市美術館では、対話型鑑賞講座を実施している。これは、ニューヨーク近代美術館で始められた教育プログラムが基礎となっている。教育普及活動の一環だが、従来のように美術史の知識を教えることが目的では無い。美術の専門的な知識は不要で、作品から感じたこと、考えたことを話し合う。互いの意見を聞くことを通じて、多様な視点や新たな発見を得ることが目的となる。主に小学生を対象とする場合が多い。美術作品が本来持つ、ひとの心に働きかけ、想像力を喚起する力に着目したものである。児童に好きな作品を選んでもらい、「この絵のなかで何が起きているのだろう」という問いかけで始まる。このプログラムで、平澤さんの作品を選ぶ児童たちが多いのである。各自、絵のなかに入り込み、それぞれの物語を紡ぐ。思いもよらぬ自由な発想が展開し、聞いている側も新たな気づきが多くある。面白いことにその多くは、過去に遡及するものではなく、これからの物語、未来に向かって物語が展開していく。年代の違いにもよろうが、平澤さんの作品は、過去と現在ばかりか、未来をも繋ぐものなのである。

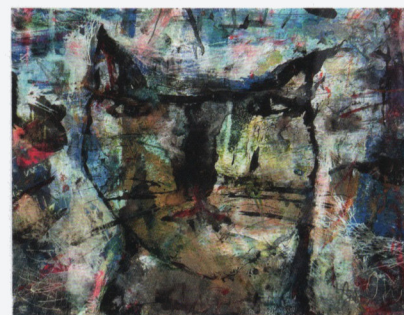
今年見た自由美術展の出品作は、かたちを結ばぬイメージが厚く重層したものであった。これは近年顕著な作風である。形を結ばぬ混沌としたイメージの堆積は、昏く重い気配が漂う。意識下に拮据する深い闇を想像させる。同時に、その昏くて深い画面を見詰めていると、現実を通り越した世界を感じさせる。目に見えぬ気配が濃厚なのだ。それは不可視の世界を予感させる。

時を往還する絵画は、此岸と彼岸を往還する絵画へと変貌しつつあるのだろうか。

川崎市岡本太郎美術館館長
武蔵野美術大学客員教授
土方明司



「ボマルツォの少女」 油彩 F3 2025年



「私は NEKO」 油彩 ガラス絵 F0 2025年



「夜が終わると雨が降り始める」 油彩 F3 2012年

意識や無意識の

身体感覚を同居させることで、

時の流れにおける偶然性や

不確実性を表現した。

対象は常に微細に揺れ動き、

表情を変える。